



ステアリングホイールのインフィニティ∞ボタンを押してロックを解除すると、485kW(659ps)のフレアクワードが利用可能になり、ドライバーへよりダイレクトなスロットルレスポンスが提供される。

特に前席への乗降性に優れた前方に大きく開くコーチドアには、4796個の柔らかく照らされた「星」を組み込んだスターライトドアを採用。スペクターならではの特徴として、ドライバーがブレーキペダルを踏むと自動的にドアが閉まるのだ。



▶ Specification

ロールス・ロイス ブラックバッジ・スペクター	
車両本体価格(税込)	56,140,000円~
全長 / 全幅 / 全高	mm 5490 / 2015 / 1575
ホイールベース	mm 3210
車両重量	kg 2900
システム最高出力 ps(kW)	659ps(485kW)
システム最大トルク Nm(kg-m)	1075Nm (スピリッドモード使用時)
モーター最高出力 ps(kW)	前 258(90) 後 489(360)
モーター最大トルク Nm(kg-m)	前 350(31.1) 後 595(60.6)
バッテリー種類	リチウムイオン電池
バッテリー容量 kWh	102
一充電航続可能距離 (WLTC) km	493-530



ROLLS-ROYCE BLACK BADGE SPECTRE

▶ ロールス・ロイス・ブラックバッジ・スペクター

“インフィニティモード”を備えた史上もっともパワフルな走りとは!?

ロールス・ロイス史上、最もパワフルな最新モデル「ブラック・バッジ・スペクター」の試乗会が

THE MAGARIGAWA CLUB のロードコースで開催された。スペクターの走りをさらにブラッシュアップしたその走りをリポートする。

リポート=大谷達也 フォト=ロールス・ロイス・モーターカーズ
report: T.Otani photo: ROLLS-ROYCE MOTOR CARS

ブラックバッジ・スペクターには、ドライバーが瞬時に強烈な加速を体感できるスピリットモードを搭載。トルク出力が一時的に1075Nmという画期的な値に増幅され、0→100km/h加速をわずか4.3秒で駆けぬける。



新時代に突入したロールス・ロイス

「ちょっとヤンチャなロールス・ロイス」。クロームの外装を黒で表現しても、あながち間違いでいる。それは先代CEOのトルステン・ミュラー・エトヴェシュが提唱し、これまで大きな成功を収めてきた「ニューリッチ」をターゲットに据えたマークティング戦略」を象徴する存在であり、いまやフラッグシップのファンタムを除くロールス・ロイスの各モデルに欠かすことのできないシリーズとされている。

したがつて「ロールス・ロイスもうひとつ驚かされたのは、スペクターのBEVとしてのポテンシャルである。

これまでのブラックバッジモデルと同様に、パンテオングリル、スピリット・オブ・エクスター、ドアハンドル、サイドウインドウサウンドなどは、ダーク仕上げが施される。この鮮烈な走りを、千葉県南房総市にあるTHE MAGARIGAWA CLUBで体験してきたのでご報告しよう。

ロードコースには、今回、主催者の手で発進加速を試せるセクションが用意されていたが、そこで到達速度を比較すると、ノーマルモードが171km/hだったのに対し、インフィニティモードでは実に182km/hに達した。これは、インフィニティモードとともに新たに設定されたスピリッドモードと呼ばれるローンチコントロールの一種を用了いた結果でもあるが、180km/hの車速でプラス10km/h前後の車速だ。その後の車速で、性能差を生み出すのだから、その威力は絶大といつていだろう。

ロールス・ロイスの2ドアクーペとしては初となる23インチホイールを装着。4万4000色にも及ぶプレタボルテカラーのほかに、ロールス・ロイス・ビーストのデザイナーと共同で、お好みのビーストカラーを開発することも可能だ。

静肅性の高さや爆発的な加速力でエンジン車に対する優位性を示そうとする試みはよく見かけるが、今回、ロールス・ロイスはスラロームコースでエンジン車との違いを実証して見せたのだ。比較対象として選ばれたのはゴーストIIのブラックバッジ。スマートコースで2台を比較すると、同じ車速で進入してもスペクターのほうがボンネットの傾きがはつきりとかかるほど小さくて度肝を抜かれた。

しかも、サスペンションの印象はスペクターのほうがソフトで、乗り心地はより快適に思われたのである。したがつてロール量の違いは、エンジン車とBEVの重心高の違いによって生まれたとみて間違いないだろう。テインテッド・ブラックのパーティカルーと相まって独特的の凄みを感じられるほか、鮮やかなミントブルーがアクセントカラーとして用いられたインテリアには「あたりのロールス・ロイスには乗りたくない」というニューリッチの強烈な「エゴ」が滲み出ているようになってしまった。

それにしても、ロールス・ロイスがダイナミックな走りで語られること自体、異例といつていい。それは彼らが新時代に突入したことを物語っているかのようだ。

史上初のBEVとして2年前に誕生したスペクターにブラッククリーズが設定されたこと 자체は驚くに値しないが、その力の入れ様は、すでに発売されて好評を博しているといつても過言ではない。既存の「ブラックシリーズ」は、6・75ℓV12ツインターボエンジンの最高出力を「たった」29psだけ引き上げ、足回りをほんの少しだけ固めたことがベースシリーズとの主な相違点だつたが、新たに登場した「ブラックバッジ・スペクター」では最高出力を585psから659psまで強化するとともに、「インフィニティ」と呼ばれるドライブモードが新たに設定されたのである。エフォートレス、つまり「苦労せずにドライブできる」

ロードコースでは、ロールス・ロイスの走りをさらにブラッシュアップしたその走りをリポートする。

リポート=大谷達也 フォト=ロールス・ロイス・モーターカーズ
report: T.Otani photo: ROLLS-ROYCE MOTOR CARS